

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針・学校経営に関して、保護者からA（よくあてはまる）とB（ややあてはまる）の回答の計が昨年度同様90%以上という高い評価を得ることができた。家庭と学校との連携についても評価が上がり、保護者の学校に対する関心と理解が深まっていると考えられる。 ・学習指導に関して、生徒のAとBの回答の計が79%以上で高い評価を得た。E（わからない）の回答が昨年度より減少し、生徒は自分の状況や学習への取組について把握ができています。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的・基本的な学習内容の定着と、専門的な知識・技術の向上を図り、主体的で対話的な学習指導を行うために校内研修を工夫・改善し、「分かる授業」「意欲的に取り組む授業」の実践に努める。 2 各教科・科目において生徒自身が学習する目的を理解し、自ら課題を見付け解決しようとする態度を育成するため、指導目標と評価規準を明確にし、指導計画や指導内容、教材等の工夫・精選を図る。 3 学んだ知識・技術を定着させ、深い学びに繋げるため、自らの学び方に興味・関心をもたせるとともに、学習習慣の確立を図る。 	
5 重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修グループを編成（公開授業実施、授業参観事後交流会） ・教務部を中心に各学科及び各教科、各学年と連携、アンケート調査と対応等の検討 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 研究授業・校内研修グループでの授業参観の実施と研修 (2) 教科を横断した学習を推進し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に取り組む授業実践 (3) 家庭学習時間調査の実施、分析 モクナナ（木曜7限）の実施 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 校内研修報告 (2) 成績不良者の減少 授業評価（生徒アンケート）結果 (3) 家庭学習時間調査結果 モクナナ（木曜7限）実施による学習習慣の定着 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の小グループを教科・経験年数等のバランスをよく編成し、公開授業週間において相互に参観し、事後交流会を実施し生徒の学びを深める工夫をする。 ・授業評価を実施し、集計結果を授業改善に活かす。 ・課題提出の徹底を図る。家庭学習時間調査を実施し、集計分析し学習指導に活かす。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業改善に向けて取り組むことができたか。 ②生徒の実態を把握し、わかる授業意欲的に取り組む授業が実践できたか。 ③家庭学習習慣が身に付き、家庭学習時間が増加したか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○教科間の交流ができるよう公開授業週間を2回設定し、授業参観と相互評価を行う取組を継続する。</p> <p>○▲年2回行う授業評価の結果を比較し、授業改善の成果を評価したところ、前期と比較して後期のポイントが微増している。授業改善につながる良い取組を情報共有し、定着できるよう、継続して研修を計画する。</p> <p>▲家庭学習時間について、考査前1週間を3回調査してきたが、回数を追う毎に学習時間が減少してきている。学習意欲の継続維持や学習方法について教科や学年と連携し指導を図る必要がある。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着：学習の必要性を繰り返し伝えるとともに、モクナナ（木曜7限）の効果的な在り方を継続して検討し、基礎学力の定着に向けての体制を強化する。 ・校内研修の継続：授業評価結果による授業改善を行い、生徒が主体的・対話的に学習することを目標にした授業が展開できるよう研修をさらに深める。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】

・基礎学力定着のための木曜7限授業（モクナナ）は、生徒たちにとってプラスになる方法や内容を考えながら実施している。今後も引き続き、有効活用の方法を考えて継続してほしい。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生にふさわしいマナー指導や服装・頭髪指導を行っているという項目に対して保護者・生徒から90%以上の高い評価を得ることができた。 ・いじめや差別を許さず、厳しく対応している項目に対して保護者・生徒から80%以上の評価があった。「いじめ防止対策委員会」の設置や取組等について少しずつ認識されてきた。 ・本校では体罰がないと、ほとんどの保護者や生徒が認めている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 すべての生徒に公平に接し、毅然とした態度で対応する。 2 職員間の共通理解、情報の共有化を図り、支援を必要とする生徒の早期発見、早期対応を目指し、組織で対応する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、専門学科を中心に毎月の情報交換会で全職員の共通理解を図る。 ・問題が発生した時は迅速に組織で対応する。 ・スクールカウンセラーの配置により教育相談体制との連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 全職員による身だしなみ指導を実施 (2) 毎月の職員会議後に生徒の情報交換を実施 (3) 遅刻指導・交通安全指導を通して社会的な規範意識を身に付けさせる指導を実施 (4) スマホの使用について校内ルールを設け、情報モラル違反者への指導を実施	(1) ファイル指導者数の減少 (2) 迷惑調査結果の追跡 (3) 遅刻回数の減少 (4) 交通事故回数の減少 (5) 情報モラル違反数の減少	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のHR身だしなみ指導の実施 ・支援を必要とする生徒を見逃さないように教育相談週間、Q-U検査、迷惑調査を実施 ・遅刻指導者に対して反省文や清掃活動を実施 ・交通安全講話、MSLと全職員による交通安全指導 ・情報モラル防止講話、全校集会、学年集会、通信等で情報モラルの向上について指導 	①ファイル指導者の減少 ②迷惑調査の結果 ③遅刻回数の減少 ④交通事故届数の減少 ⑤SNS等への不適切な書き込み、個人情報、個人写真等の投稿減少	A (B) C D A (B) C D A B (C) D A B (C) D A (B) C D
11 成果・課題	○全職員の協力により身だしなみ指導が定着してきたが、登下校時や学校以外の場での改善が見られない生徒がいるため、継続的に指導する。 ○問題行動の件数は減少しているが、悩みを抱える生徒は増加している。月1回のスクールカウンセラーの配置を活用し、支援体制をより充実させる。 ▲クラス担任と連携を図り、遅刻者に反省文等の指導を行ったが、3年生の遅刻者が全体の49%を占める結果となり大変残念であった。学校生活への意欲づけを行うとともに、規範意識を高め、余裕をもって登校ができるように指導する。 ▲交通ルールやマナーの遵守を呼びかけたが、交通事故件数が昨年度の件数より5%増となっている。事故発生後の対処方法について正しく認識させ、一人一人の危機意識を高め被害者、加害者にならないように指導を行う。 ▲スマホの使い方やSNSの危険性等について集会時や通信を通して指導しているが問題件数は減少しない。情報モラルの向上を図り、継続して繰り返し指導を行う。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者の減少を目標に、クラス担任や保護者との連携を図り、きめ細かな指導をする。 ・交通ルールを遵守する意識とマナーの向上を目指す。特に自転車運転時のイヤホン装着について注意喚起を行う。 ・スマホの使い方やSNSの危険性等について指導し、情報モラル意識の向上を図る。 	
総合評価 A (B) C D		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数が昨年度に比べて多いが、事故対応の指導はできているので継続してもらいたい。 ・スマホの使用方法や自転車のマナー等はさらに指導を継続してほしい。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「進路説明会等保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出し希望に添って具体的な進路指導をしている」の項目で、保護者・生徒の両者から共に87%以上の高い評価を得た。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 社会において信頼と尊敬を得る人材の育成をするため、基本的な生活習慣、豊かな教養やマナーの定着、基礎学力の向上のための指導を充実する。 2 進路指導に対する全職員の共通理解を深め、高校3年間を見通した計画的・組織的な進路指導体制を確立する。 3 生徒一人一人と保護者に適切な進路情報を提供できるようにガイダンス機能を充実する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部と各教科・専門科（基礎学力定着に向けての取組） ・進路指導部と学年会・専門科（進路ガイダンスの事前・事後指導）		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒状況の把握 (2) 基礎学力向上への取組 (3) 各種ガイダンスの実施 (4) 進路別指導実施	(1) アンケート結果 (2) 3教科の平均点と推移 (3) アンケート結果 (4) 就職内定率・進学合格率		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・進路希望調査による生徒希望の把握 ・基礎力診断テストによる生徒学力の把握 ・キャリアカルテ・進路の手引の利用 ・就職・進学に向けた個別・集団面接指導	①保護者との話し合いの有無 ②課題への取組姿勢 ③事前事後指導への取組姿勢 ④「進路実現」の達成か否か	Ⓐ B C D A Ⓑ C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D	
11 成果・課題	○3年生の進学希望者や就職希望者に対して、外部講師・職員による計5回の面接指導を実施し、生徒に緊張感のある面接を数多く体験させることができた。その結果として進学合格や就職内定に良好な成果を得た。 ○各種ガイダンスに、その趣旨を理解し、関心をもって積極的な態度で参加する生徒の姿が見られた。 ○3年生の100%の「進路実現」を達成することができた。 ▲基礎力診断テストにおいて、最下層(D3)の人数を期待ほど減らすことができなかった。来年度は各教科やモクナナとさらに連携して臨む必要がある。 ▲3年生の懇談時において、数名の生徒が進路についてその保護者との十分な意思統一がなされていなかったことは来年度の改善重点課題とする必要がある。		総合評価 Ⓐ B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・来年度の進路行事を本校のキャリア・パスに沿って再構築する。 ・各学年の進路ガイダンスの在り方を毎年検証し、生徒達に進路実現の目標を早期に見つけさせて取組姿勢の改善を促す。特に1年生のキャリア・リサーチはさらに工夫したい。 ・基礎学力の向上に向けて、各教科と連携し「基礎力診断テスト」の結果を詳細分析し有効活用に繋げる。 ・来年度、一般教科への生徒の意識付けとして新たな方策を模索したい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】
・進路目標がしっかりきまっている生徒がほとんどである。生徒が主体的にどうなりたいか、何を勉強したいかという目標をもって意欲的に学習に取り組むことで社会に貢献できる人材を育成している。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇情報図書部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 一斉配信メールの有効活用に関して、保護者からA(よくあてはまる)とB(ややあてはまる)の回答の計が約92%と高い評価を得た。 ホームページ等を用いた情報発信に関しても、AとBの回答の計が保護者からは約86%、生徒からは約77%と良い評価を得た。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教育活動を積極的に保護者や地域へ発信し、理解や関心を得る。 2 情報セキュリティを確保するため、情報機器環境整備に努め、情報管理を進める。 3 読書を通して豊富な知識の吸収と論理的な思考力、豊かな感性や明確な表現力の育成に努める。学習などに対して十分な資料提供ができるよう計画的に図書資料の整備・拡充を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 情報図書部を中心とした図書館・視聴覚運営委員会 生徒会の図書委員会、放送委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ホームページの内容の充実 (2) 一斉配信メールの有効的活用 (3) 朝読書週間の前に、ホームルームや授業において本の準備を呼びかける。関心をもたせるために掲示物を作成して、図書館の利用者を増やす。図書館だよりに図書委員から本の紹介を掲載する。	(1) 生徒・保護者へのアンケート (2) 生徒・保護者へのアンケート (3) 生徒・教員へのアンケート	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 年度当初より一斉配信メールの全員登録を呼びかけ、6月までに生徒・保護者の登録状況を確認し、お願いした。登録できていない保護者には、7月懇談時にお願した。必要に応じてメールを配信した。 全校で朝読書週間(2週間)を年2回実施した。 職員や1年生のお薦め本の紹介をまとめた掲示物を図書委員会で作成し掲示した。校内読書感想文コンクールに向けて、国語科・担任と連携し、夏の課題とした。 週1回移動図書館を開館し、本の貸出を行った。 	① メール登録者数 ② 朝読書への参加の様子 ③ 読書感想文の提出状況 図書館利用者数	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○▲一斉配信メールの登録を呼びかけ、生徒、保護者とも登録率95%以上になった。非常変災時等の連絡のため、早い時期から確認を始め、100%を目指したい。 ○ホームページの更新に努め、情報をできるだけ早く提供できた。 ○図書委員が本の紹介の掲示物を作ることで、朝読書週間、校内読書感想文コンクールに向け、雰囲気盛り上げることができた。 ○昨年度より図書館利用者数・貸出冊数ともに増加した。 	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒・保護者に向けて一斉配信メールの登録についてより一層の呼びかけを行い、4月に登録確認作業を行う。 新刊図書を紹介を積極的に行い、各教科の授業において図書館の積極的な活用を促す。 朝読書週間では、全校生徒が一斉に取り組めるよう、本の貸し出し等の準備をする。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】

- 一斉メール、ホームページなどの有効活用により、学校と家庭の情報共有や、緊急時の連絡体制ができている。今後もホームページを随時更新し、情報提供に努めてほしい。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。													
2 評価する領域・分野	◇特別活動部													
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実度は生徒・保護者とも高く、保護者は昨年よりさらに上がった。(生徒：77.2→76.5% 保護者：90.7→92.0%) ・生徒会が活発と答えている生徒が、増加した。(74.3→82.4%) ・LHRが有意義と答えている生徒が、増加した。(81.6→83.2%) ・部活動が活発と感じている生徒・保護者ともに多く、生徒は昨年より増加した。(生徒：71.3→87.4% 保護者：81.3→90.4%) 													
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会活動を通して、生徒の自発的・実践的な活動を進め、規律と活気ある校風を築く。 2 ホームルーム活動の充実・向上に努め、人間としての在り方、生き方を形成する場とする。 3 各部において目標を定め、生徒が主体的に取り組み、感動と喜びを味わう部活動を展開する。 													
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動部・生徒会執行部を中心に各委員会活動(分掌)と連携。 2 HR活動推進委員会[教員]を中心にHR活動運営委員[生徒]を通して各クラスのホームルーム活動(学年・学科)と連携。 3 部顧問会議[教員]と部代表者会議[生徒]を通して、各部活動と連携。 													
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標													
<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会行事(対面式・体育大会・文化祭)の企画・運営 中学生の学校見学会等での学校紹介 (2) LHR計画用ファイルの配布、回収、確認 (3) 新入生部活動予備調査とスムーズな部登録 年2回の一斉部会で部活動取組状況の確認 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 行事のアンケート(生徒の満足度) (2) HR計画用ファイルの使用状況 (3) 部活動取組状況と部活動成績 													
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価												
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で取り組んだ対面式・体育大会・文化祭と学校見学会等の学校紹介、通常の委員会活動実施 ・LHR計画用ファイルと昨年度の実施例の配布と回収及び記述内容等の確認 ・合格者説明会時の新入生の部活動予備調査と部登録での確認、後期一斉部会での取組状況確認 	<ol style="list-style-type: none"> ①外部評価の意見・アンケート結果・担当者の意見 ②外部評価の意見・担当者の意見 ③部活動取組状況と部活動成績 	<table border="0"> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	(A)	B	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D
(A)	B	C	D											
A	(B)	C	D											
A	(B)	C	D											
11 成果・課題	<p>○生徒会行事や学校見学会での学校紹介を生徒会役員の意欲的な取組により実施できた。 【生徒満足度：体育大会 86%(普通13% 不満1%)、文化祭 70%(普通28% 不満2%)】</p> <p>▲今後、生徒の実態や状況にあった文化祭のよりよい実施方法を検討。</p> <p>○LHR計画用ファイルと昨年度の実施例の各クラスに配布で、計画・実施を実践。 ▲今年度、工事により、賢美館利用のLHR実施が制限された。</p> <p>○部活動の成果 【全国大会出場1部、東海・中部大会出場2部、次年度全国大会出場決定2部他】</p> <p>▲年2回の一斉部会等で部活動加入状況は把握できたが、1年生の部活動継続と部活動の活性化が課題である。</p>													
12 来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や状況にあった文化祭のよりよい実施方法を模索している。 													

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が日々生き生きとして生活している様子が伺える。1つ1つの行事に自発的に積極的に取り組んでいる様子も知っている。今後も大垣桜高校の魅力を発信し続けてほしい。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者ともに、継続的な防災・減災教育推進に対する取組や「自分の命は自分で守る」主体性をもった生徒の育成に高い評価をしている。 ・災害時の連絡手段の確保（災害用伝言ダイヤル171の体験利用等）や家具等の転倒防止策などに関して十分な備えが今後の課題である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全 ・「自分の命は自分で守る」ための主体的行動力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・訓練体験を通じた判断力と行動力の育成 2 保健衛生 ・自己の発育と健康状態を把握し、健康の保持増進のため積極的に活動できる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の事後処置率向上を目指す 3 環境整美 ・環境への影響を理解し、校舎内外の美化活動に積極的に参加する生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・整美委員会活動の充実、掃除開始時間の徹底、ゴミ分別マナーの向上 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育推進…保健厚生部、整美委員会、家庭クラブ、福祉科 ・環境整備…事務部 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校常備用非常食の点検 (2) 「命を守る訓練」の実施(予告なし含む)年3回実施(5・8・11月)防災教育啓発放送の実施 (3) 健診結果の連絡徹底と家庭との連携 (4) ゴミ分別マナー向上 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校常備用非常食の点検に対する取組状況 (2) 「命を守る訓練」の取組状況や防災意識向上シートによる事後感想 (3) 健康診断事後処置率の向上 (4) 通知を出した枚数や分別の改善状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・通常日課の時間内で、時間予告なし、地震音有り、階上避難などの訓練を実施 ・健診結果の事後処置について担任指導、個別通知文、呼出指導のくり返し ・「ゴミ分別お願い通知」の配布 	<ol style="list-style-type: none"> ①自ら考え行動する臨機応変な行動や危険回避行動の定着と防災リーダー育成の取組 ②健康診断事後処置率の向上 ③ゴミ分別状況の改善 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果課題	<p>○学校常備用非常食の点検を行うことで災害時に必要なものを認識させることができ、災害後の生活への準備と意識をもたせることができた。</p> <p>○「命を守る訓練」に使用する防災頭巾の作製・修繕などを通して「自分の命は自分で守る」ための内容と行動を理解し、対応と避難行動が迅速にできるようになった。</p> <p>○担任指導、呼出指導のくり返しによって健診結果の自己理解が深められた。</p> <p>▲ゴミ分別への意識低下があるので、行事の際など特に意識向上に努めたい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・災害場面を想定して予測できる行動を学習し、訓練時に行動を的確に行うことで緊張感のある訓練を計画する。 ・校内における病気・ケガに対する迅速な対応と、家庭への連絡徹底に努める。 ・校舎内外の美化活動に積極的に取り組み、整美委員会を中心にしてゴミの分別マナー向上に努める。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除が行き届いており、清潔感のある校舎である。女性が多いということもあるかもしれないが、階段の踊り場に鏡があることも良い。生徒は身だしなみや外見だけではなく、内面もみることが出来る。 ・命を守る取組は、今後も継続してほしい。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇渉外 育友会、保護者との連携	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校からの連絡文書を保護者に届けている」生徒80.7% 保護者78.4%と回答している。これは、昨年度より4～9%向上している。 ・「一斉メールは有効に活用されている」保護者92.0%と高い評価を得ている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 学校と育友会会員との連携の向上を図るため、連絡が確実に届くようにするとともに、意見交流の機会を提供する。 2 育友会役員と密接な連携を図り育友会の各種行事・事業を円滑に行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会役員会や学級委員会を組織して、学校と家庭の協力関係を強化する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 一斉メールによる育友会活動の案内 (2) 育友会活動の活性化 (3) 役員会の充実（執行役員会の実施） 必要に応じ執行役員会を実施	(1) 各種行事の参加率の増加 育友会総会・科別懇談会 視察研修 (2) 育友会バザーの成果 (3) 役員会の実施回数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・一斉メールによる育友会活動の案内 ・定例行事：育友会総会、科別懇談会、視察研修 ・育友会活動の活性化行事 クリーン活動（6月、9月、11月） 文化祭食物バザー ・役員会の充実（執行委員会の実施） 	①各活動についてプリント配布 事前メール発信の実施 ②行事参加率(前年度比10%増) ③クリーン活動の参加者数 文化祭バザーの状況 ④役員会、臨時役員会の開催	A (B) C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○育友会活動については参加票提出締め切り前に一斉メールを配信し参加者を募った。 ▲科別懇談会は、育友会役員、学級委員の参加率が高いが、その他の参加率の低迷が続いている(微増したが目標の10%増に届かなかつた)ため、懇談会の内容を検討する必要がある。 ▲育友会総会の参加率を上げるために奨学金講座のような保護者の関心が高い内容を取り入れる。 ○育友会バザーは盛況であった。完売し、収益金も増えた。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会、科別懇談会など、行事活動の参加率を上げる方法を育友会役員と検討する。 ・クリーン活動の参加について、より一層の呼びかけを実施する。 	
11 総合評価 A (B) C D		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加する行事の在り方を今後も継続して工夫し、参加率を上げてほしい。 ・保護者と学校が連携し、今後も生徒が活躍できる環境を整えていただきたい。
--

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2) 専門的知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3) 広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇家庭部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や福祉の専門的な学習を通してコミュニケーション能力や思考力、判断力・表現力の育成に努めているという回答が、保護者86.4%、生徒95.8%と高い評価が得られた。 ・多様なニーズに対応した専門的な学習を通して、地域産業や生活産業に貢献できる人材を育成しているという回答が、保護者96.0%生徒96.6%と高評価で、専門学科の特色を生かした各行事や研究活動の成果が表れた。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 生徒が自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を伸ばせるよう、学科の特色や生徒の実態を踏まえたきめ細やかな指導方法を研究し実践する。 2 家庭・福祉における専門的知識や技術の習得・向上を図り、教材や指導方法の工夫等について研修を行い、自律的な生活習慣を定着させるとともに、自ら学ぼうとする主体性、積極性を養うための授業展開について研究する。 3 学校家庭クラブ活動の目標である「創造・勤労・愛情・奉仕」を基に、積極的な研究活動や奉仕活動の実践を通し、地域に貢献できる生徒を育成する。 4 専門的知識・技術を生かした進路選択を自ら行うことができるような能力や態度を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地区研究、広報活動、学校家庭クラブ活動、家庭科技術検定、ビジネス文書検定、インターンシップなど担当を分担して企画し、家庭部全員が連携する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒の実態を踏まえたきめ細やかな指導と分かりやすい授業展開のための教材開発と授業研究 (2) 資格取得への取組。全員合格を目指し、個別に対応した補習授業の実施 (3) 家庭クラブ研究活動の新規発案と全校への普及 (4) 統一見解の元での挨拶やマナー指導	(1) 学校評価、授業評価（生徒アンケート） (2) 技術検定合格率 家庭科技術検定100%、保育技術検定100% (3) 全校生徒への普及、生徒の姿 (4) 学校評価、生徒授業評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専門教科の授業における授業改善 ・各学科の行事内容及び成果の積極的な広報 ・家庭クラブの研究活動継続 ・家庭科技術検定の取組 ・身だしなみや挨拶指導 ・インターンシップの実施と指導（業務）内容の見直し、事前指導の徹底、事後報告会の実施 	①学校評価、授業評価、進路実現 ②HP更新と新聞社等への取材依頼 ③家庭クラブ役員、担当教員の反省 ④家庭科技術検定合格率 ⑤生徒授業評価、教員の反省・改善 ⑥インターンシップ 企業の評価、生徒評価	A (B) C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○専門学科の特色ある授業、3年間のSPH事業または学校行事や校外での研修などを通して、多くの生徒の著しい成長を見ることができた。特に、各学科が行う研究を発表する場面等で、日ごろの学習の成果を多方面にPRすることができた。 ○家庭クラブ活動では、地域のクリーン活動を継続的に行うことができた。反射材を生かしたマスコットでドライバーへの交通安全の呼びかけをすることができ、今後も継続したい。 ○各学科において、資格取得やコンクールに積極的に挑戦し、成果を収めることができた。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的学習習慣を確立させ、基礎的な知識・技術の定着を図りたい。意欲的に学習や課題に取り組む姿勢や態度を育成するため、各学科における専門科目の指導計画の見直し、実習課題の検討、教材研究を深め、指導方法の研究を行う。 ・各専門分野で学んだことを生かし、インターンシップで職業観を高め、グローバル社会に目を向け、高い目標をもって進学先を選択し活躍する生徒が増えた。今後も様々な行事を通して、生徒が自ら取り組むことができる姿勢やリーダーを育てる等、指導体制の構築を図る。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の体験を聞いて、与えられた課題だけではなく自ら課題を見付けて行動する姿に感動した。 ・スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業は社会とつながっており、商品開発や普及活動の体験が学習意欲につながっている。
--